はすやうな馬鹿な事は爲ない、假令へお直訴するとも後に崇りのないお鷹野先だ、お鷹野先で直訴をすれば如何だ、罪に陷ちないぢやないか　源内「ヤア成程流石の老人これは名工夫……だが老人今日で八月二日、お鷹野と云へば是非十二月、八九十霜月師走五ヶ月の間夫れぢやア待つのか　彦左「ヤハヽヽヽ、乃公がかゝッて居て其様なに優柔不斷と待ッて居られるか、コヽ二三日の中にお鷹野をさせる　源内「コレ老人如何に貴殿だッて其様な無法な事を言ッちやア不可ない、八月の上旬にお鷹野なんてあるものか　彦左「サア其處をさせるが彦左衛門だ、成るか成らんか登城の上、暫時待ッて居れ……治郎助〳〵　治郎「ハッ
彦左「アー乃公は是から登城する間、源内なり谷がシッと待ッて居るも退窟だらう、何には無くとも一盞燗けて飲

まして遣れ、源内マア一盞飲んで待ッて居れ……斯うと……ア、治郎助其方兩人の側に附て居れ、何分源内昨夜廿五匁散財で居る位ゐだから、對座に一盞飲んで居る、乃公は城内で氣を揉んで居る、兩人に巫山戯られちやアいゝ面の皮だ　源内「老人何にを云ふのだ、此場にあッて其様な串戯處ぢやアない　彦左「ヤハヽヽヽ、年を老ると兎角餘計な處へ氣が廻ッてナ、ナニお谷串戯だ〳〵待ッて居れ、今に吉相知らして遣る」とニコ〳〵笑ひながら彦左衛門殿は御登城になりました、大奥にツツーッと通りになり、將軍家のお側に出ました、然るに三代家光公は頻りに御書見で有りましたが　家光「オヽ老爺ヨ　彦左「エー上様相變らず御機嫌好く在せられ臣彦左衛門恐悅至極に存知奉つる、ハヽア御書物を御覧になりますナ結構〳〵、

お恥しい事ながら彦左衛門は戰場で成長を致しいろはのいの字は左りからもつて行くか右からもつて行くか存せぬ位ゐ、然るに上樣抔は書物をば繙けば、見ぬ世の人を友と致し數百年以前の事も直に分ると云ふ、ヤどうも結構なものでござる　家光「老爺ヨこの書物抔は到ツて解り易い、斯樣なものである、これしきのものなれど其方も讀めぬこともあるまい、老爺や讀んで見い　彦左「これは怪しからん、いろはのいの字は右からもつて行くか左りからもつて行くか、解らぬと云ふ舌の根の干ぬうちに、此書物を讀んで見ろとは何んだ、アヽさては此彦左衛門に恥を搔せるのか、コレ上樣〳〵と尊敬すれば附け慢り誰のお庇蔭で此樣なにおなツた、勿体なくも東照神君、擔いで三河以來の御旗本、戰場萬馬を往來致し、一命に代へて

働いたる其力があればこそ、習ツて書物を忘れぬやうに温習るよりは、チト神君なり彦左衛門抔の勳功を忘れぬやうおさらへなされ、アーア……　家光「イヤ老爺ヨ恕せ々々、予に對ツて左樣にまで申し呉れるは其方に限る、老爺ヨいつまでも壯健で予が側に罷在り平生諫言致し呉れエ　彦左「ハヽツ有難く存知奉る、……　家光「老爺ヨ何故落淚に及ぶ　彦左「何時までも側に在り壯健で居れヨとの御一言、身に取りまして彦左衛門如何ばかりか有難く、私しもいつ〳〵迄もお側に居り度きは此上もなき希望ながら、上樣最う此彦左衛門は三日の中に一命がおざりませぬ　家光「フーム……老爺ヨ、さては其方病氣であるか　彦左「イヤ誠に壯健でございまする　家光「然るに三日の中に一命が無いとは……　彦左「サお聽き下され上樣、アヽ昨夜彦左衛門寐

て居ります枕邊に……家光「ア久しいものだ、御祖先樣の枕神か　彦左「これは怪しからん久しいものだとは何んの言で、如何にも東照神君現はれ出で給ひ、不忠不埒の彦左衛門、三日の間に一命を取るから左樣相心得ゝとの御立腹、されど彦左衛門神君に不忠と云はる、身に取り些る無之、如何なる次第かと伺ひ奉つれば、孫の家光の事を呉々も汝に頼み置きしに、此頃の家光の柔弱なる事、スワ戰場とも相成らば如何致す心得であるか、それに汝ば心注かざるやと至極の御立腹……家光「ア否々老爺ヨ予れ到ッて身躰は壯建であるぞ、何故權現樣が柔弱とれ仰りありしか　彦左「サア其處でござります上樣、母君に爲て見ると壯健の思召しなれど、神君の目より見給ふ時にはヽイヤ實に柔弱千萬、何故と仰せあれ、夏は涼しき處へ立

廻り、蟬の羽の如き衣服を召され、剩さへ左右より團扇で煽がせ、冬は居間に温め炬燵だの手温り火鉢だの、又眞綿に包まれ夫れ丈けにして漸く保ッて居るお身躰、スワ戰場と相成り雪霙の夜に野陣でも張り、一と晩徹夜して御覧なされ、直に冷るが入ッたとか痢病だとか、一ト晩の間に煩ひつき給ふは必定だ、又夏の炎天に甲冑に身を固め、馬上に跨り一里と二里と行くか行かざる中に直に霍亂、彦左衛門夫れに心注かずして、ウカ〱と致し居りしを神君のお憤り、サ上樣お考へ遊ばせ、成程眞に壯健の身躰とはヨモ御返答はお出來なさるまい　家光「ム、ウ……成程老爺ヨ道理である、ソレ此上は柳生但馬を呼べヽ擊劍勝負に身を固め、適れ身躰を壯健に致して見せる

彦左「イヤ〱擊劍の柔術のと、これは士卒等の致すべき

業、上様抔がなさるべき御稽古ではござらん　家光「老爺ヨ然らば相撲を取らうか　彦左「ハヽヽヽヽ相撲を取ッて何に成ります、左様な卑しき事では上様に價値が下る、身躰の……　家光「然らば老爺ヨ何を致す　彦左「云ふまでもない治に居て乱を忘れぬが爲め、戰場の下稽古五躰固めはお鷹野をなさい、お鷹野を、草鞋を穿いてドシ〳〵歩き廻はる、これが一番　家光「ムヽウ成程老爺ヨ鷹野であるかよい〳〵承知に及んだ、シテ何時致す　彦左「明日なさい明日　家光「直ぐ明日か　彦左「それでなければ彦左衛門一命が無くなりまする、又彦左衛門が一命を取られた後では、三日經ずに尊君も是非一命はお取られ遊ばす、去すれば、必らず明日……　家光「フム併し老爺ヨ、只今から申出して明日の鷹野の供揃へが出來るか　彦左「イヤそれは彦左衛

欠

MISSING